

## 2012年10月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500hPa 高度は、高緯度帯で正偏差、中緯度帯では概ね負偏差となった（負の北極振動）。ベーリング海付近や北大西洋北部ではブロッキング高気圧が形成された。ユーラシア大陸から太平洋を流れるジェット気流は、平年の位置と比べて南偏した。日本付近では偏西風の蛇行は弱く、東西流が卓越した。南半球成層圏では極夜ジェット気流が弱まり、高緯度帯の気温が大きく上昇した。

熱帯の対流活動は、フィリピンの東海上、インド洋西部、カリブ海付近からアフリカ西部の熱帯収束帯で平年より活発、インド洋東部から海洋大陸（インドネシア多島海）付近、北太平洋の日付変更線の西側で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上・中旬に太平洋西部から大西洋を東進し、下旬にはインド洋西部に達した。対流圏下層の太平洋赤道域は、西部で東風偏差、中・東部で西風偏差となった。対流圏上層は、ユーラシア大陸南部で低気圧性循

環偏差だった。南方振動指数は+0.5だった。

### 世界の天候

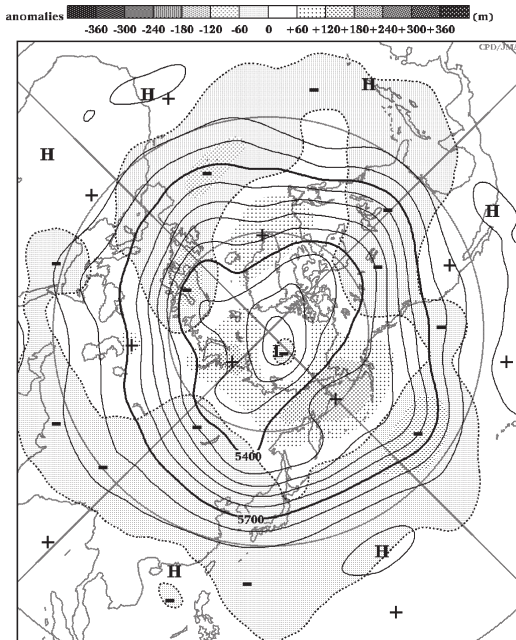
2012年10月の世界の月平均気温偏差は+0.19°Cで、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.61°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- カザフスタン西部からチュニジアにかけて、異常高温となった。
- アルゼンチン中部では、異常多雨となった。
- 米国東部では、ハリケーン「サンディ」の影響により100人以上が死亡したと伝えられた（米国連邦緊急事態管理省）。また、ハイチとキューバでは合わせて60人以上が死亡したと伝えられた（国際連合人道問題調整事務所、キューバ政府）。

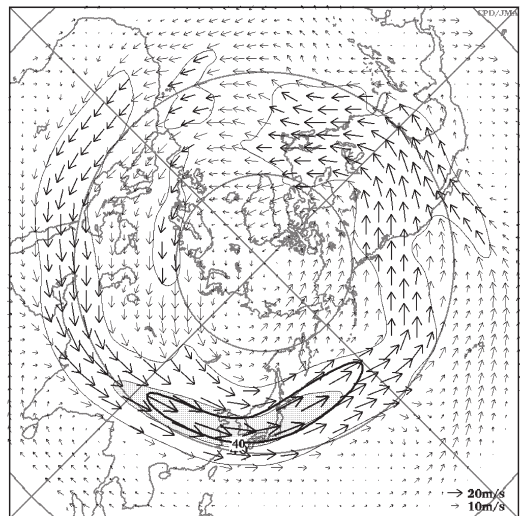
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

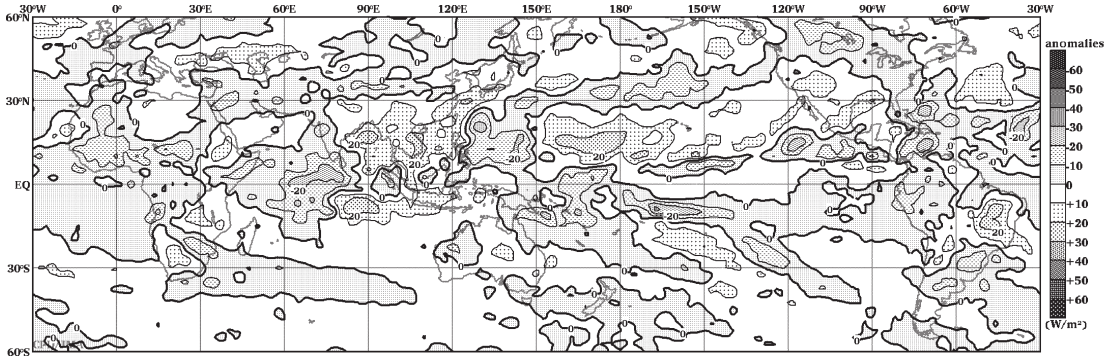
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



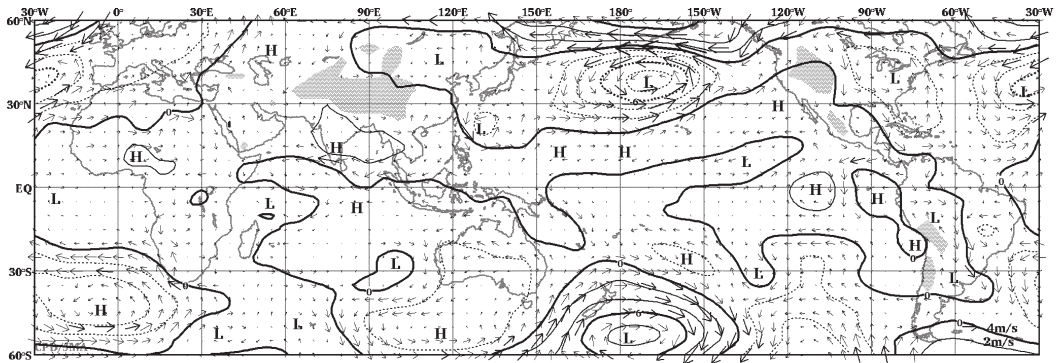
2012年10月の北半球月平均500hPa 高度および年偏差  
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



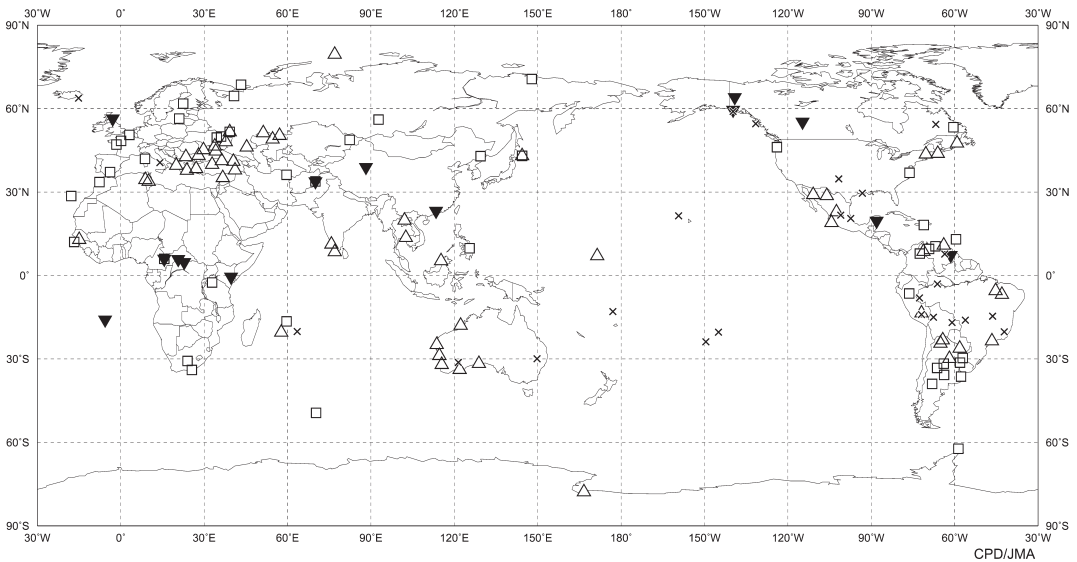
2012年10月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は20m/s。陰影部は40m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40m/s以上の領域を示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年10月の月平均外向き長波放射量平年偏差  
 等値線間隔は10W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年10月の月平均850hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。